**令和４年度第１回森林環境保全税関連事業評価委員会【第１部】議事録**

# **１　日時**

令和４年８月２日（火）１３：３０～１６：００

# **２　開催方法**

　【第１部】オンライン会議（コロナ対策のため）

# **３　出席委員**

荒田　鉄二（公立鳥取環境大学環境学部　教授）

小椋　陽子（琴浦町赤碕婦人会　会長）

嶋田　治　（一般公募委員）

大丸　修二（米子商工会議所青年部　監事、（株）大丸水機　代表取締役社長）

竹歳　和晃（（一社）倉吉観光マイス協会　常務理事、ホテルアーク21　副支配人）

堤　 晴彩（鳥取大学地域価値創造研究教育機構　地域連携URA　特命助教）

※委員数６名が出席し、定足数に達しているため本会は成立となる。

# **４　議事**

## （１）令和４年度とっとり県民参加の森づくり推進事業の企画書等の審査及び選定（第２次募集分のうち２件）

### **＜審査結果＞**

　審査の結果、２団体中、２団体が採択された。

### **＜質疑応答＞**

### ①ものづくり協力会議

○委員

　和紙の作られ方のパンフレットをせっかく作るのであれば、ホームページに掲載する等すると、今回の活動後も活用され、より多くの方に知っていただく機会になると思われる。

→○企画提案者

　パンフレットは、年間通して実施するイベントの中で使うなど計画している。コロナでイベントで人を集めるのはやりづらい状況だが考えていきたい。

○委員

　和紙の紙漉き体験ではなく、すでに出来上がった和紙を渡すだけでは、森との繋がりが見えず、森林環境保全税の事業になるのか疑問。

→○企画提案者

　「木から和紙ができるまで」というパンフレットを準備し、森林環境保全税の趣旨をしっかり子供たちや保護者や団体、職員に理解していただくということをメインに考えている。

○委員

　昨年度実施された木製コマキットの配布も含んだ企画になっているのはなぜか。今回新しく実施される和紙だけでいいのでは？　コマを使った昨年度事業の結果のフィードバックがないと、今年度もコマを実施される背景が分からない。

→○企画提案者

　年々入ってくる新しい子供たちにもコマづくりを体験してもらいたいという趣旨。

　昨年度の結果については、保護者、団体、こどもさんのアンケートをまとめて県に提出しており、それを参考にしていただくとありがたい。

→○事務局

　参加者アンケート等も添付した実績報告書を提出され、３月に委員の皆様に事後評価いただいている。

**＜企画提案者の退室後、審査中の意見＞**

○委員

　今回の企画では、体験活動を実施するのは、キットを受け取った公民館等。それが体験型と言えるのか。また、パンフレットで森林環境保全税の普及は素晴らしいが、知恵を与えることが体験型と言えるのか。

→○事務局

　このキットを制作して配布するという事業形態は、コロナ禍で対面の活動をしたくてもできないという状況の中で、最大限子供たちが学べる資料等を作り、実施したいということで、特例として認めた経緯がある。

### ②木育サポート　森のきこりん

○委員

　県全域対象に募集となっているが、募集の仕方は何でされているか？

→○企画提案者

　直接市町村に広報に行き、チラシを作りポスターと日本海新聞に掲載。あと、Facebook、地元ケーブルテレビ局４局により、県域全体に広報をしたいと思う。

○委員

　森川海の繋がりは、具体的にどのような活動になるのか？

→○企画提案者

　川の水、海に流れていく水の大元は山で生まれる。森や山があるから生き物が生活していける。森の養分が海に流れていき、プランクトンの栄養になり、大切な栄養が川上から流れてくる。これらの繋がりを勉強して欲しいと伝えたい。

○委員

　新聞やケーブルテレビへの広告掲載に費用はかからないのか？

→○企画提案者

　枠を取って掲載依頼すると高価なので、費用がかからない形で、イベント情報コーナーなどに、少し詳しく記者さんに書いてもらう。ケーブルテレビは詳細未把握だが、月に一回情報交換がある。情報を県内広く皆さんに伝えたい。

## （２）令和３年度とっとり県民参加の森づくり推進事業の事業効果の検証（書面審査）

（略）

## （３）鳥取県森林環境保全税のあり方検討会に係る報告及び意見交換

事務局から、資料７に沿って説明。

### ＜意見交換＞

○委員

　保全税の名称変更については、当初は変えた方が良いと思っていたが、名前を変えたら分かりやすくなるという訳でもなく、名称の後に「（国税）」「（県税）」と書けば十分とも思えてきた。名前を変えるとすでに作ったパンフレット等の作り直しが必要となり印刷費もかかってしまう。

　補助対象となる消耗品の上限額引き上げについては、チェーンソー等の道具を十分に持っていない団体が新規参入しようとする際にネックになっているかもしれない。

○委員

　税の認知度はなかなか変わらないと思う。税の使い方として妥当かは置いておいて、認知度向上のためにどうしたら良いかと考えると、ガイナーレに年間費用を出して、ユニフォームに環境保全税の名前を出してもらってＰＲするようなことも考えてはどうか？

○委員

　ＮＨＫ鳥取が担当しているニュース等の時に、下に字幕を流すことはできないか？

○委員

　ガンバレルーヤなど地元タレントを使った番組を作って、そこで保全税について取り上げてもらったほうが認知度向上には近道だと思う。税だからダメと考えるのではなく、制約を取っ払って、認知度向上のために必要なことをやらないと何も変わらない。

# **５　その他**

## 　・次回の開催予定

次回の会議は、9月に第３回あり方検討会。１０月頃、第４回最終検討会を予定。

以上

**令和４年度第１回森林環境保全税関連事業評価委員会【第２部】議事録**

# **１　日時**

令和４年８月９日（火）９：３０～１２：００

# **２　開催方法**

　【第２部】オンライン会議（コロナ対策のため）

# **３　出席委員**

荒田　鉄二（公立鳥取環境大学環境学部　教授）

岡本　順子（鳥取県西部経済研究会　会員、米子ユネスコ協会　会員）

小椋　陽子（琴浦町赤碕婦人会　会長）

神谷　明子（鳥取県生活協同組合　全域理事）

小林　佳崇（（一財）鳥取県観光事業団　シニアマネージャー）

嶋田　治　（一般公募委員）

大丸　修二（米子商工会議所青年部　監事、（株）大丸水機　代表取締役社長）

竹歳　和晃（（一社）倉吉観光マイス協会　常務理事、ホテルアーク21　副支配人）

※委員数８名が出席し、定足数に達しているため本会は成立となる。

# **４　議事**

## 　・令和４年度とっとり県民参加の森づくり推進事業の企画書等の審査及び選定（第２次募集分のうち３件）

### **＜審査結果＞**

審査の結果、３団体中、３団体が採択された。

### **＜質疑応答＞**

### ①鳥取県中部森林組合

○委員

　シイタケ植菌で菌を打ち付けた木は、毎年どこかで保存され皆さんで同じようにとられたりするのか。

→○企画提案者

　体験で打った原木は、ご自身で次の年に採取できるよう、自宅に持ち帰っていただくようにしている。

○委員

　シイタケ原木は、森林組合さんが持っておられる木でされるのか。

→○企画提案者

　シイタケ生産農家の方に依頼して手配している。実際どのようにシイタケを作っておられるかということを勉強していただきながら採取もしていただく企画としている。

### ②三朝温泉かじか蛙保存研究会

○委員

　地道な活動が大事である。今後も続けていただきたい。活動される中で、本事業についてもっとこういうふうにした方が良いとか、意見があれば逆に教えていただきたい。

→○企画提案者

　だんだん高齢化してきている。もっと若い人に参加していただいたら嬉しい。

○委員

　西部からも希望者が参加できるよう、米子発着の送迎バスも検討できないか。

→○企画提案者

　鳥取駅発は、環境大学からの参加者対応で設けたもの。基本は公共交通機関での参加をお願いしたいが、団体での参加希望があれば対応検討できる。

○委員

　昨年度の活動写真で、参加者の皆さんが青いビブスを着ており、見栄えが良いがトヨタの事業のように見えるのが気になった。

### ＜企画提案者の退室後、審査中の意見＞

○委員

　トヨタさんの着られていた青いビブス。森林環境保全の事業をするときに共通のビブスを着るようにして、体験事業をＣＭや広告に出してもらえば、森林保全税のＰＲになるのでは。

→○事務局

　ビブスは非常に目立って良い。継続したイベントの企画が上がってきた時に、こういったビブス等について経費計上していいのか。委員の皆様から異議がなければ、広告もしながら活動も行うことができればというふうに考える。

○委員

　保全税の事業として、事務局が５０着くらい作っておいて、貸し出すような形で着てくださいというのがよいのでは。

→○事務局

　後の管理のこともあるので、事務局がまとめて購入する形の方が良いかもしれない。ビブスに限らず、のぼりなどＰＲグッズを準備して貸し出すことを検討していきたい。

### ③伯耆町豊かな森づくり実行委員会

○委員

　溝口小学校の生徒さんのみの参加なのか？

→○企画提案者

　開催場所は溝口小学校で考えており、対象の３、４年生の子供たちになる。

○委員

　米子市など町の子供達が、伯耆町の小学校の方々との交流しながら一緒にできるような方向性も考えていただきたい。

→○企画提案者

　他の市町村との交流や、県全体で森林の大切さを学んでいく場、繋がるような取り組みが出来ないか、実行委員会の方で、取り上げ検討させていただきたいと思う。

# ５　その他

## 　・体験型企画のあり方について

○委員

　伯耆町豊かな森づくり委員会も、体験型として応募していただいているが、中身は森林教室で、座学が中心になっている。その後の体験が、森林に行くのではなく、木工教室やシイタケ植菌になっている。工夫はされていると思うが、何か他にやりようはないのか、この事業が元々意図していた形なのだろうかという点が気になる。

→○事務局

　来年また企画される際には、新しい体験型を何かしら練っていただくように事務局からも話はしてみたいと思う。

## 　・新規参入促進策について

○委員

　この事業を使って他の団体がどのような活動をしているかを知る機会があると良いのでは。

○委員

　同意。ホームページに活動一覧を載せたらと前回提案したのもその考えから。

○委員

　各団体の活動を県民向けに発表できるような場があると、保全税のことをもっと知ってもらえたり、自分たちでもできるかもと感じて新規参入につながったりするかもしれない。

→○事務局

　情報発信は非常に重要と考えている。各団体の活動一覧など基本的なところからできていないが取り組んでいきたい。

○委員

　それぞれの活動が終わった後、どのような活動だったかが外から見えにくくなっている点が一つ課題であり、事務局でできることがあれば取り組むのも一手。あと、委員が実績報告書をもとに、委員がこれがベストワンだという形で選んで、それを県HPや新聞等に掲載すれば、団体にとって励みになるし、保全税の周知にもつながる。

○委員

　良い活動に順位をつけて、優秀なところに賞金をつけるようなことをすれば、もっと新しい活動・団体が出てくるのではないか。

## 　・オンラインでの開催について

○委員

　移動時間が楽になるのでオンラインで問題ない。時間的には３団体を審査した今回くらいが限界で、これ以上なら２回に分けた方がよい。

○委員

　オンラインで問題ない。リアルと併用しても良いのでは。オンラインの方が審査が時間内で進んでスムーズだった。

○委員

　この人数であれば進行上も問題ないと感じた。

以上